第5回全国福祉用具専門相談員研究大会　6月19日に初の大阪開催

6月19日、本年に開催地の千里ライフサイエンスセンターで「第5回全国福祉用具専門相談員研究大会」が開催される。口述発表は、地域・多職種連携・事業所の取組、科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組、効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働―の5テーマ・全48演題。現場で培った福祉用具専門相談員の実践や知見、調査研究を発表する。

本特集では、各地から寄せられた発表内容をインタビュー、また記虎孝年大会長にもコメントを寄せていただいた。

記虎孝年 大会長（関西シルバーサービス協会 理事長）

専門性向上につながる貴重な機会に

福祉用具サービスの現場を担う専門相談員が集まり、日々の取り組みを発表し合う研究大会の開催が自則となった。今回は演題発表に過去最多のエントリーがあり、これまでよりも枠を増やした。5テーマ・48演題の発表が旋回される。

24年制度改正で福祉用具貸与・販売の選択制が導入され、その業務プロセスではケアマネジャーや医療職との多職種協働により、ご利用者の在宅生活を見通しつつ最適なサービスをコーディネートし、継続的にフォローすることが求められている。

また、レンタルのモニタリング結果の共有とケアマネジャーへの共有も法令義務付けられるなど、福祉用具専門相談員はチームケアの中でより一層その専門性を発揮し、そのたゆまぬ研鑽を積み、より課題解決を図る使命感を胸に、在宅生活を希望している方々に寄り添う新たな一歩を踏み出すことが期待されている。

この大会中に発表される、福祉用具サービスに関する